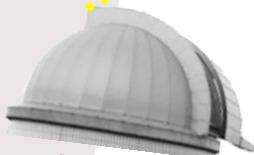


【天体観測ドーム 今月の OPEN 日】

6 / 6(土), 7(日), 13(土), 14(日), 20(土), 21(日), 27(土), 28(日)



屋上・天体観測ドーム

5月半ばに緊急事態宣言が解かれ、すこしずつ通常の生活が戻ってきてあるようです。まだまだ気を抜いてはいけな時期ですが、3密を避けながら心をゆたかに保ちたいものですね。

そして天体観測ドームは、6月からまたオープンします。春から夏へ向かう夜空を観察におこしください。また梅雨の入口になりますが、この季節は星空のみどころもいっぱい。雨が降ったあとは大気中の塵埃が洗い流されて透明度の高い星空になっていますよ♪ぜひ空を見上げてみましょう。

コンパルホール

星空通信

2020年 6 月号

topic

大分駅前・フランシウスの世界地図

大分駅北口のサビエル広場に行き、足元に目をおとしてみましょ。

なんと大きな世界地図。これは南蛮文化香る時代に、ネーデルラント生まれの天文学者ペトルス・フランシウスが作った世界図です。中央上下の小さい天球図には黄道十二星座の主役たちなどがぐるりと描かれていますね。

今回は、乙女座のあたりにある何やらフサフサした浮遊物に秘められた歴史を…。このフサフサは「かみのけ座」。じつは2世紀頃に48星座が制定された際、フトレマイオスがこれを星座と認めなかったため、長い間ひとつの星座と認められなかった不遇の星座なのです。

1586年にドイツの地図製作者ヴォヘルが初めて自作の地球儀に描き、1551年にメルカトルがこれを採用、フランシウスのこの図は1594年のもののようです。長いこと存在しながらやっと星座と認識されてのち数十年…とするよ、このとき、けっこう旬な星座だったのでは。

隅から隅まで丁寧に、美しく描かれた世界図。いろいろなドラマを想像しながら楽しむのもいいですね♪



東経131度36分50秒、北緯33度13分55秒に位置するコンパルホール。屋上(7階)には、直径5メートルの電動回転式ドームがあります。最大倍率約275倍のニュートン式300ミリメートル反射式望遠鏡を1台、さらに、100ミリメートル屈折式望遠鏡4台を備えています。観望時には指導員が星空の解説をおこない、望遠鏡の操作説明もします。大分の街中に、ふらりと星を見にいっちゃいませんか？

今月の惑星情報

火星

日の出前の南東の空に見え、明るさは、0.0等からマイナス0.5等。

金星

上~中旬は見かけの位置が太陽に近く観察は難しいが、月末には高度が高くなる。

水星

下旬~6/13は東京での日の入り30分後の高度が10度を超え、観察しやすくなる。

木星

真夜中の南東から南の空に見え、明るさはマイナス2.6等からマイナス2.7等。

土星

真夜中の南東から南の空に見え、明るさは、0.4等から0.2等。

★曇天時のお問い合わせ★

097-538-3700 (コンパルホール)

